

# 2012年12月期 第2四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社  
代表取締役社長  
吉野 公一郎

**JASDAQ**

証券コード:4572

- ✓ 売上高は、対前年同期比17.9%減
- ✓ 営業損益は、売上高減少および売上原価率悪化により前期比48百万円のマイナス
- ✓ 経常損益は、営業損益の悪化および営業外収益(補助金収入)の減により前期比88百万円のマイナス
- ✓ 当期純損益は、経常損益の悪化及び特別損失の改善により前期より77百万円のマイナス

(百万円)

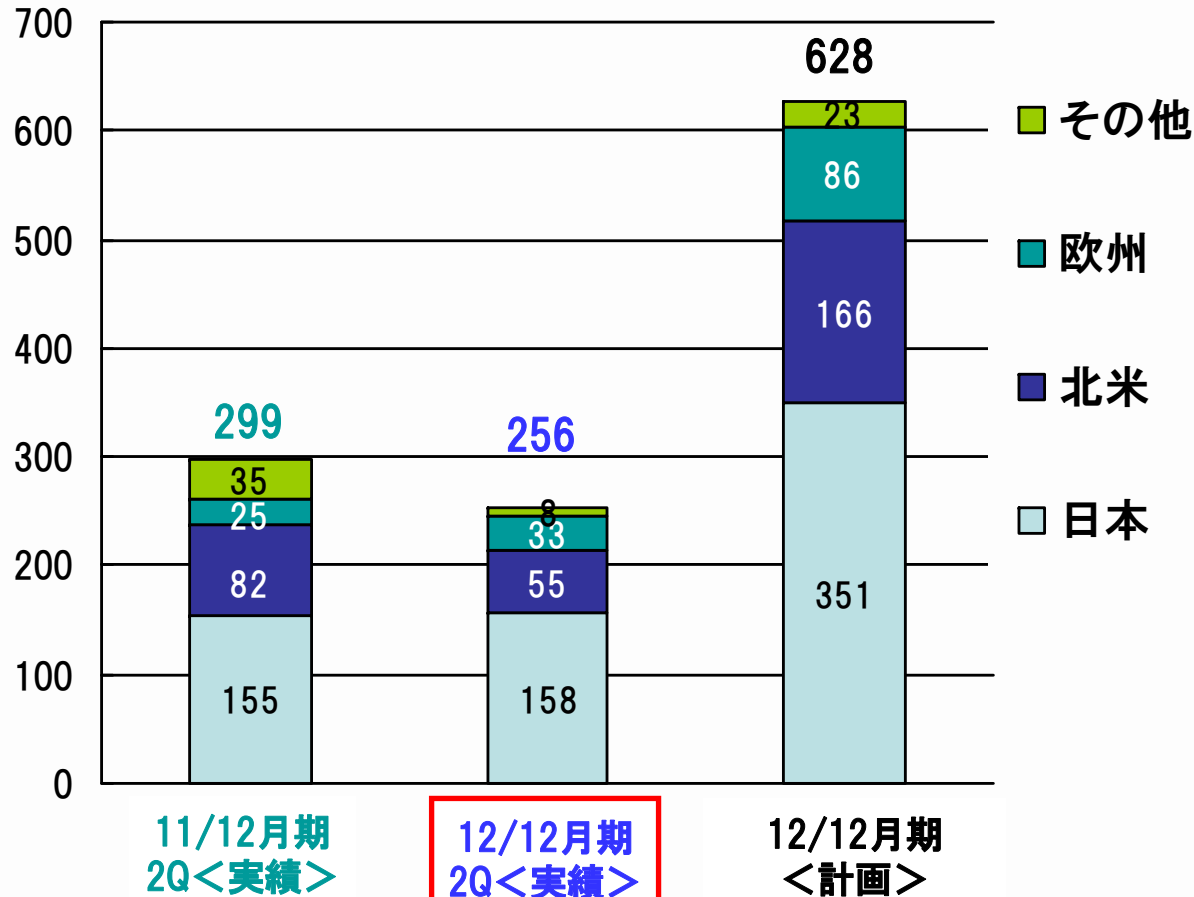
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2012年12月期第2四半期実績 (a)	256	△236	△218	△224
2011年12月期第2四半期実績 (b)	312	△187	△129	△146
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△55	△48	△88	△77
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△17.9%	—	—	—
2012年 計画値 (e)	728	△305	△289	△296
対通期計画 進捗率 (%)	35.2%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2012年7月20日発表の修正通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

## (百万円) 地域別売上高(連結)



創薬支援全体の売上は  
前年同期比14.2%減

・国内は前年同期比2.1%増

・北米は前年同期比32.4%減  
⇒タンパク質売上的大幅減少

・欧州は前年同期比28.7%増  
⇒セルベースアッセイ売上増による

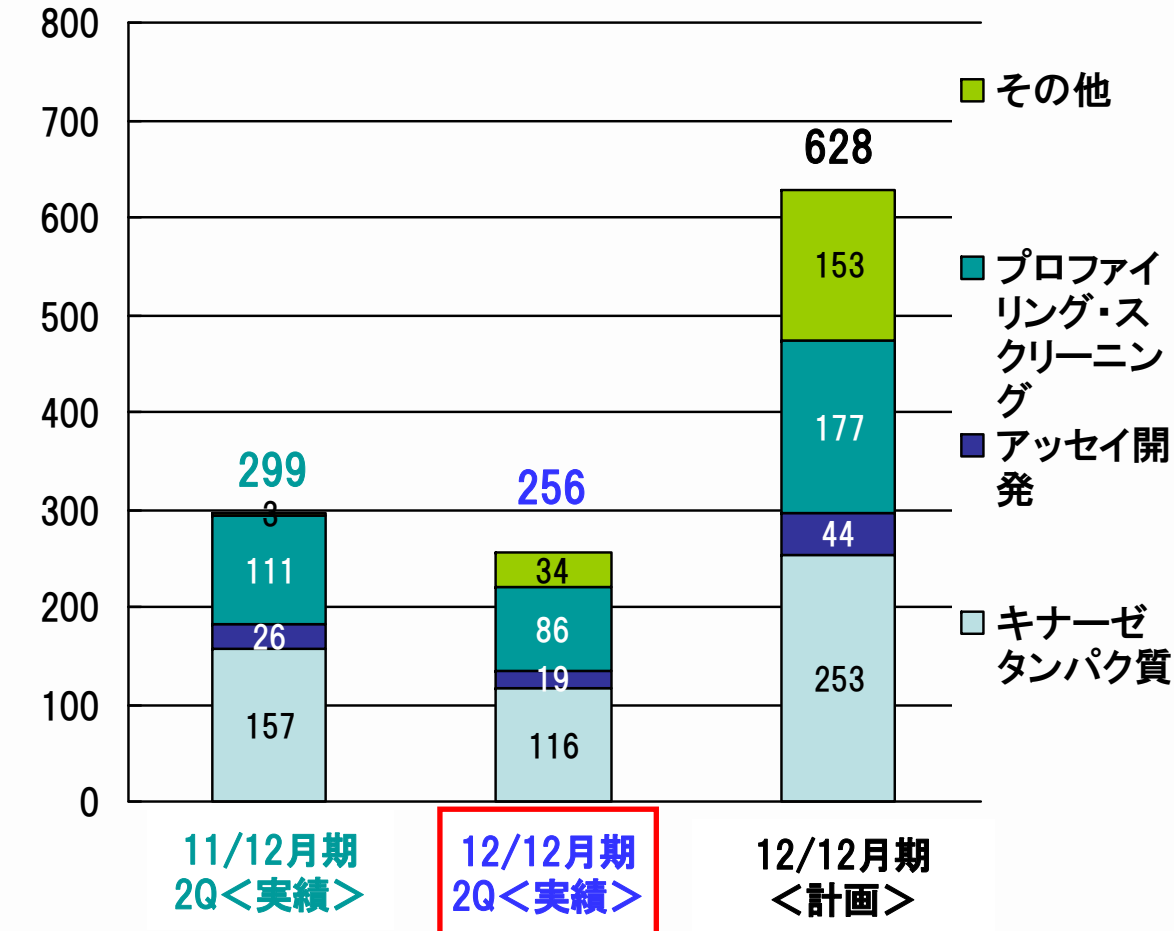
・その他は前年同期比75.2%減  
⇒バルクタンパク大口注文減

為替レート(US\$): 81.96円  
海外売上比率: 48.0%

79.82円  
38.1%

77.00円

## 製品別売上高(連結)



- ・タンパク質販売は前年同期比26.0%減  
⇒国内は7.7%減  
北米は25.2%減  
欧州では12.6%増  
その他地域でバルクタンパク注文減
- ・プロファイリング・スクリーニングサービスは前年同期比22.5%減  
⇒国内は18.3%減  
北米は40.9%減  
欧州は72.6%減  
その他は小幅減
- ・アッセイ開発は前年同期比27.6%減
- ・その他は前年同期比849.0%増  
⇒国内は前年同期売上0⇒21百万円へ  
北米は92.4%増  
欧州は934.3%増  
その他は小幅増  
⇒Crelux社のX線結晶解析サービスやACD社のセルベースアッセイサービス、セルラインの提供の売上増

- ✓ 売上高及び売上原価の悪化に伴い、売上総利益、営業損益がマイナス
- ✓ 経常損益は営業損益のマイナスおよび営業外収益減(補助金収入)によりマイナス
- ✓ 四半期純利益は、経常損益の悪化及び特別損益の改善等により前期比77千円のマイナス (百万円)

		2012年12月期 2Q累計実績	2011年12月期 2Q累計実績	前年同期比 (増減額)	主な増減理由
売上	創薬支援事業	256	299	△42	主に北米での売上の減少による
	創薬事業	—	13	△13	共同研究による分担金収入のマイナス(契約内容の見直しによる)
	合計	256	312	△55	
売上原価		105	93	11	外製品販売の増加に伴う
売上総利益		151	218	△67	売上減少+売上原価増
販管費	研究開発費	182	199	△16	
	販管費 (研究開発費を除く)	204	206	△1	
	合計	387	406	△18	
営業利益		△236	△187	△48	
営業外損益		17	57	△39	
経常利益		△218	△129	△88	
特別損失		5	10	△5	前期の資産除去債務基準適用影響額が当期なしにより改善
四半期純利益		△224	△146	△77	経常損益の悪化+特別損失の改善

(百万円)

	2012年12月期 第2四半期末	2011年12月末	増減額	増減理由
流動資産	848	1,123	△274	
現金及び預金	624	701	△77	研究開発資金等
有価証券	—	200	△200	譲渡性預金の解約による
その他	224	221	2	売掛金減少、棚卸資産増、前払費用増等
固定資産	203	194	8	
資産合計	1,051	1,317	△265	
負債合計	260	298	△37	長期借入金の返済による減少等
純資産合計	791	1,019	△227	
負債・純資産合計	1,051	1,317	△265	

## 米ACD社とのセリン・スレオニンキナーゼのセルベースアッセイ技術開発に係る共同研究開始



TKは全てで約90種類

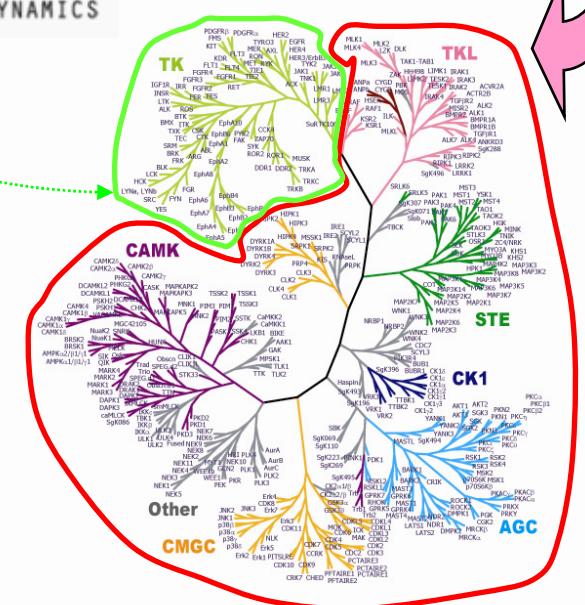
400種類以上あると言われるセリン・スレオニンキナーゼ(S/ThK)が対象

ACD Cell-Based TK Assays Available for Screening Services

Total 61 Kinases - Broad Coverage of the Tyrosine Kinome!

ABL (BCR-ABL)	EphA1	FLT1	KIT	SYK
ALK	EphA3	FLT3	LCK	TIE1
ALK[L1196M] <b>New!</b>	EphA4	FLT4	LYN	TIE2
ARG (ABL2)	EphA5	FMS (CSF1R)	MER (MERTK)	TRKA (NTRK1)
AXL	EphB1	FRK	MET	TRKB (NTRK2)
BLK	EphB2	HCK	PDGFR $\alpha$	TRKC (NTRK3)
BMX	EphB4	HER2(ERBB2)	PDGFR $\beta$	TYK2
BTK	FAK	IGF1R	RET	TYRO3
CCK4 (PTK7)	FGFR1	INSR	RON (MST1R)	ZAP70
EGFR	FGFR2	JAK1	ROR1	
EGFR[s746-750] <b>New!</b>	FGFR3	JAK2	ROS (ROS1)	
EGFR[L858R] <b>New!</b>	FGFR4	JAK3	RYK	
EGFR[L861Q] <b>New!</b>	FGR	KDR	SRC	

Updated : 2012/7/20

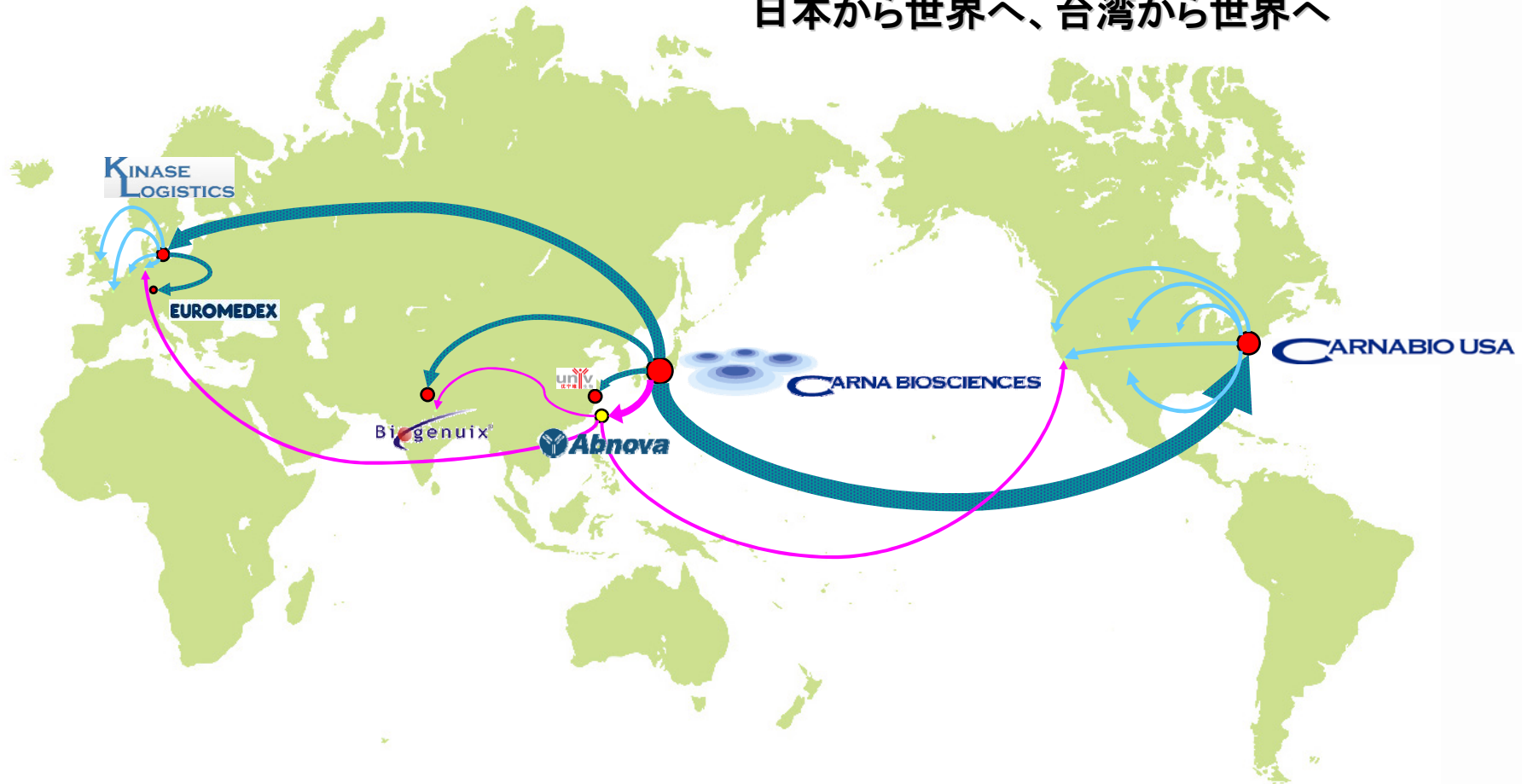


61種類のチロシンキナーゼ(TK)でアッセイ可能  
※平成24年6月末現在では57種類

※ 当社の神戸ラボで共同研究中

## 台湾Abnova社とバルクタンパク質OEM供給契約を締結

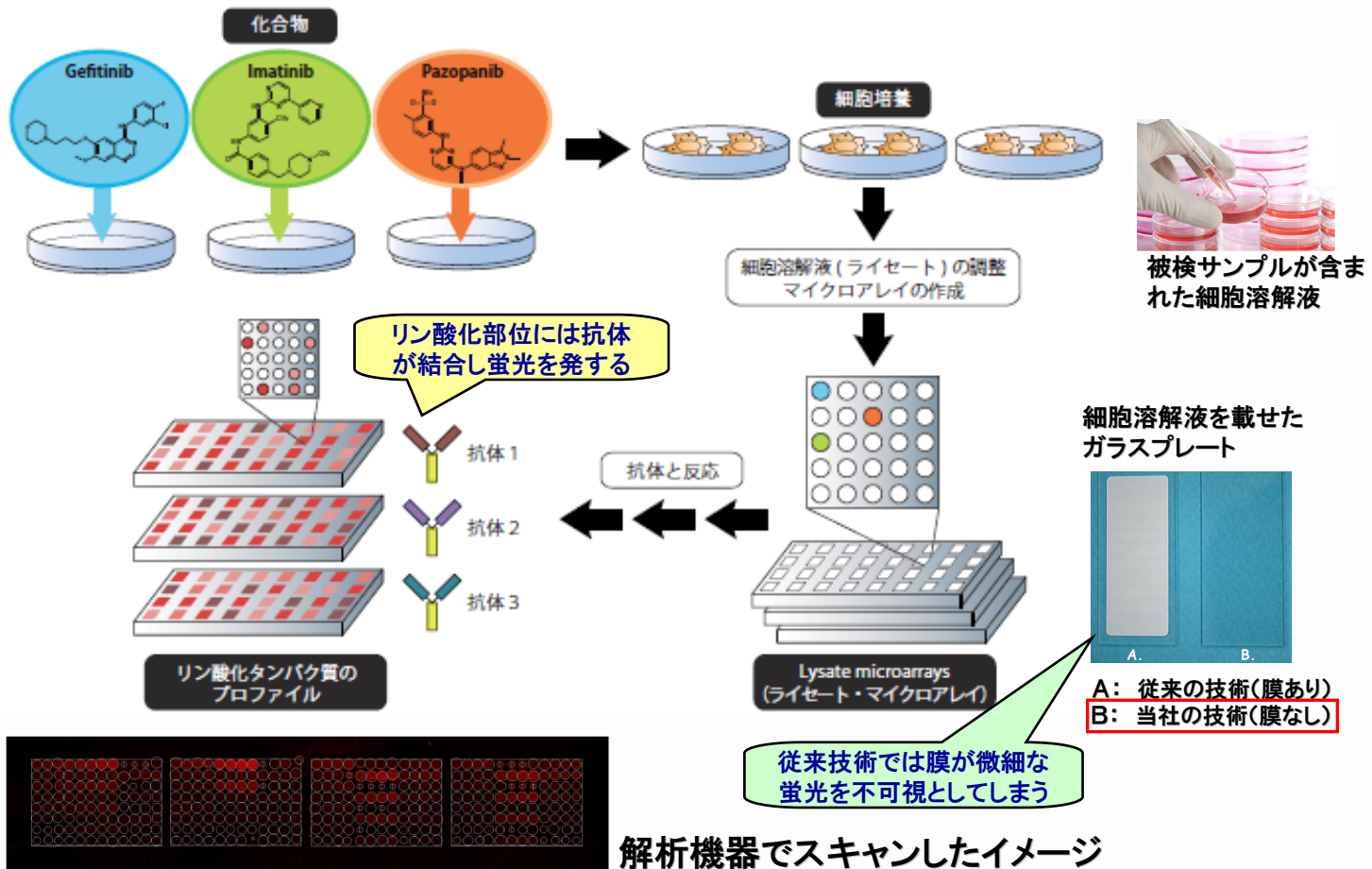
日本から世界へ、台湾から世界へ





# 独)国立がん研究センターから導入したRPPA技術に基づく リン酸化シグナルの網羅的解析サービスの提供開始

RPPA (Reverse Phase Protein Array: 逆相タンパク質アレイ)



**【本技術の特長】**  
細胞溶解液をサンプルとして1枚のガラスプレートの上に多数スポットして、タンパク質のリン酸化状態を同時に多数解析することができます。これにより、高効率に網羅的に細胞内のリン酸化シグナルの状態を確認することができます。

## 『細胞内リン酸化シグナル研究の新展開 ～セルベースで切り拓くキナーゼ阻害剤研究～』



平成24年7月4日 於 東京品川コクヨホール

平成24年7月6日  
於 神戸医療センター TRI会議室





# 注目される先端バイオテクノロジーネットワーク

## 世界のオンリーワンテクノロジーネットワーク



独立行政法人  
国立がん研究センター

日本  
RPPAリン酸化  
シグナル解析



米CAI社 (平成24年7月2日発表)  
セリン・スレオニンキナーゼ  
セルベースアッセイ

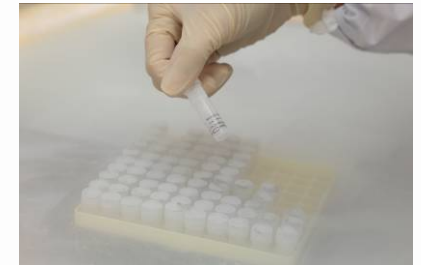


米ACD社  
チロシンキナーゼセルベースアッセイ



独クレラックス社  
共結晶サービス  
結晶化グレードタンパク質

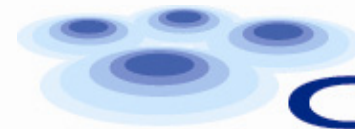
- **セルベースアッセイサービスの本格提供開始**  
RPPA、TK,S/Thキナーゼセルベースアッセイ
- **主力商品キナーゼタンパク質の供給体制強化**  
台湾Abnova社へのOEM供給など
- **米国市場の販売体制強化**  
販売ネットワークの再構築
- **年間契約の拡大**  
プロファイリングサービス  
スクリーニングサービス



### 神戸大学との新しい構造科学に基づく 先端的創薬技術の共同研究契約締結



**KOBE**  
UNIVERSITY



**CARNA BIOSCIENCES**

### デュアルキナーゼ阻害剤を新たなアプローチで設計し、画期的な新薬につなげる

大型放射光施設 SPring-8 の活用



(wikipediaより引用)

財団法人計算科学振興財団の  
FOCUS(スーパーコンピュータ)の活用



地の利を活かして兵庫県に集積する最先端のデバイスを駆使できる



# 当社の創薬研究ネットワーク

TNIK及び新たな  
キナーゼ阻害剤



DYRK1Aキナーゼ阻害剤



CDC7キナーゼ阻害剤



SYKキナーゼ阻害剤



カルナバイオサイエンスを中心とした  
創薬研究ネットワーク



創薬基盤技術



マラリアキナーゼ阻害剤



デュアルキナーゼ阻害剤



セリン・スレオニンキナーゼ  
セルベースアッセイ系開発

※ 開示済みの製薬企業、バイオベンチャー、研究機関のみ表示しています

2012年7月現在

## 当社が公表している研究パイプラインの進捗状況

2012年6月末現在



- ガンを継続的に重点領域とする
- 2012年12月期に2テーマの導出又は探索から前臨床へのステージアップを達成する
- 導出活動を継続的に実施
- アカデミアを含めた研究パートナーとのアライアンスの活用  
(国立がん研究センター、北里研究所、神戸大学等)

ステージアップ数	前臨床⇒臨床 (又は導出)		1	1
	探索⇒前臨床 (又は導出)	2	1	1
研究テーマ数		5	5	5

2012年                  2013年                  2014年  
 12月期                  12月期                  12月期



## 平成24年12月期 連結売上計画

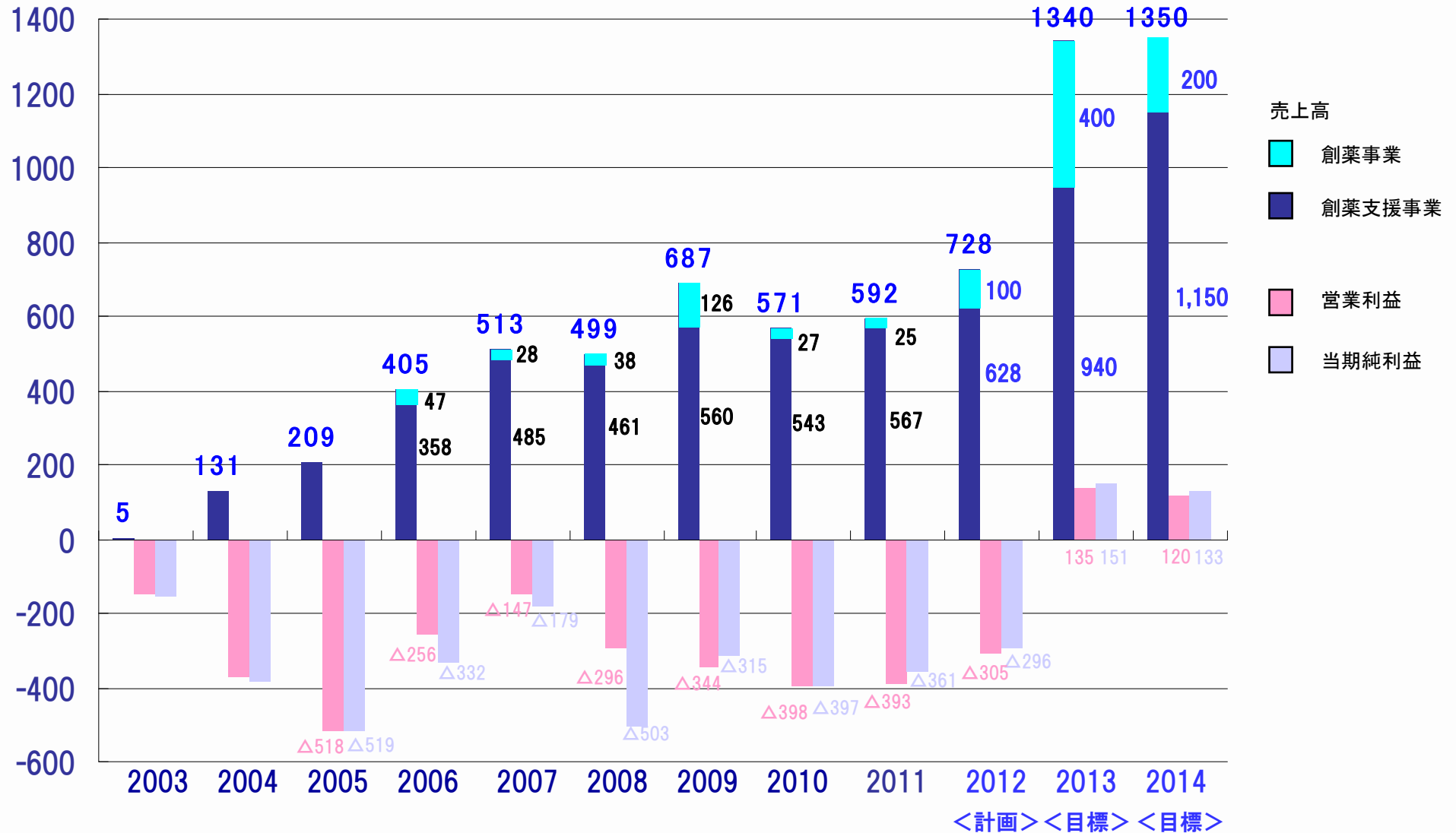
地 域	売上高 (百万円)			対前 計画比 (B/A)	対前連結 会計年度比 (B/C)
	前回公表 計画 (A)	今回公表 計画 (B)	前連結 会計年度 (C)		
日 本	347	351	285	101.4%	123.2%
北 米	242	166	154	68.7%	107.8%
欧 州	116	86	71	74.0%	120.1%
その他	34	23	55	69.6%	43.0%
創薬支援事業 計	740	628	567	84.9%	110.8%
創薬事業計	100	100	25	—	396.8%
全社合計	840	728	592	86.7%	122.9%

(注) 前回公表計画は平成24年2月10日公表の数値、今回公表計画は平成24年7月20日公表の数値による

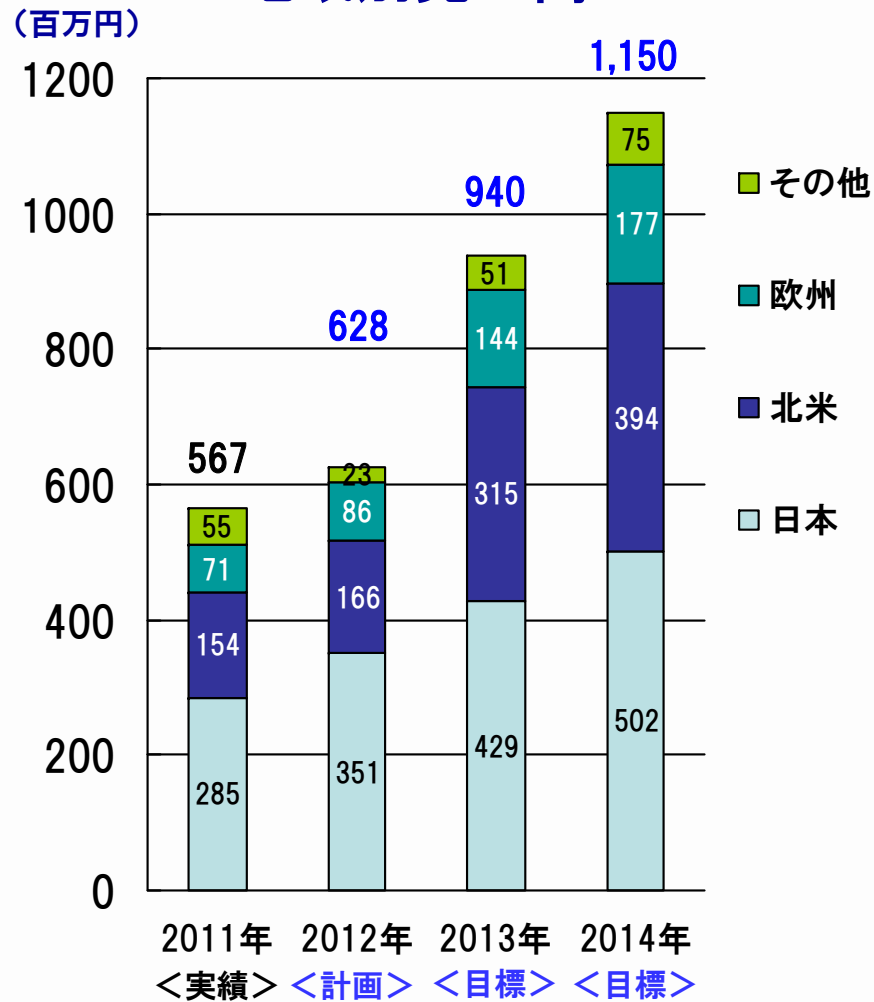


# 売上高、営業損益、当期純損益マイルストーン(連結)

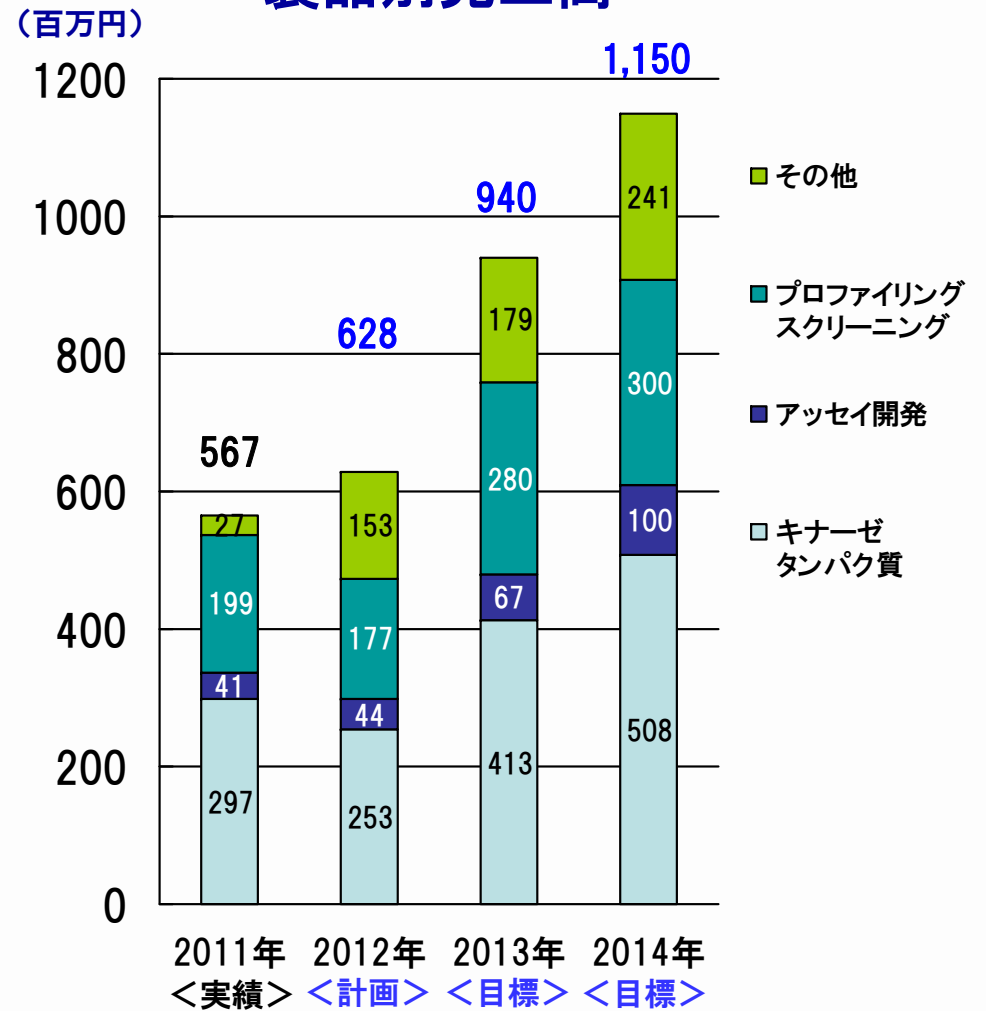
(百万円)



## 地域別売上高



## 製品別売上高



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社  
経営管理本部 経営企画部  
〒650-0047  
兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F  
Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665  
<http://www.carnabio.com/>  
ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。